



平成24年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成24年8月3日

上場会社名 イー・ガーディアン株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6050 URL <http://www.e-guardian.co.jp/>
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 高谷 康久
 問合せ先責任者（役職名） 常務取締役（氏名） 溝辺 裕 (TEL) 03-5575-2561
 四半期報告書提出予定日 平成24年8月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年9月期第3四半期の連結業績（平成23年10月1日～平成24年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年9月期第3四半期	1,630	—	44	—	63	—	25	—
23年9月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 24年9月期第3四半期 25百万円 (—%) 23年9月期第3四半期 1百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年9月期第3四半期	15.35	15.18
23年9月期第3四半期	—	—

(注) 平成24年9月期第3四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成23年9月期第3四半期の数値及び対前年四半期増減率については、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年9月期第3四半期	1,228	943	76.8
23年9月期	—	—	—

(参考) 自己資本 24年9月期第3四半期 943百万円 23年9月期 1百万円

(注) 平成24年9月期第3四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成23年9月期の数値については、記載しておりません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年9月期	—	0.00	—	5.00	5.00
24年9月期	—	0.00	—	—	—
24年9月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無
 平成24年9月期の1株当たりの配当金につきましては、現在未定です。

3. 平成24年9月期の連結業績予想（平成23年10月1日～平成24年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

通 期	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
	2,105	—	57	—	83	—	37	—	22.45

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無
 平成24年9月期第3四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、対前期増減率については、記載しておりません。

4. その他

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規1社 (社名) イーオペ株式会社、除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年9月期3Q	1,681,600株	23年9月期	1,681,600株
② 期末自己株式数	24年9月期3Q	20株	23年9月期	—株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年9月期3Q	1,681,586株	23年9月期3Q	1,592,394株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しておりません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、四半期決算短信 (添付資料) 4 ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(4) 追加情報	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	6
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

当社は、当第3四半期連結累計期間より「イーオペ株式会社」を連結子会社化し、四半期連結財務諸表を作成しているため、業績数値の前年同四半期との比較は行っていません。

（1）連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、東日本大震災からの復興需要等を背景に緩やかながらも景気回復の兆しが見えましたが、欧州金融危機や円高といった状態が続き、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

一方、モバイルを含む国内のインターネット関連市場におきましては、ブロードバンド環境の普及やスマートフォンの台頭による携帯電話の高速データ通信や定額料金の見直し等を背景に引き続き市場成長が継続しており、今後もインターネットにおける技術革新はますます進み、様々なサービスが展開されていくものと予想されます。

また、投稿掲示板やブログ・SNSなどのコミュニティサイトを含むソーシャルWEBサービス（※1）の活性化が進む一方で、こうしたソーシャルWEBサービスを利用したネットワーク犯罪やなりすましによる不正アクセス禁止法違反等のサイバー犯罪は年々増加傾向にあるため、ユーザーが安心して利用できるようなソーシャルWEBサービスの安全性を求める声は一層高まりを見せております。さらに直近では、ソーシャルゲームにおけるリアルマネートレード（RMT）（※2）等の問題も増加しており、それらを防ぐための監視サービスのニーズはますます増加していくものと思われまます。

このような環境のもと、当社グループはエンドユーザーであるインターネット利用者が、いかに安心・安全かつ健全にソーシャルWEBサービスを活用できるか、「楽しい」と感じられるかが重要なファクターであると考え、平成24年9月期より経営理念をこれまでの「We guard all」から新たに「Build Happy Internet Life」へと変更いたしました。そして単なる監視ではなくサービス提供者である顧客企業とインターネット利用者の価値について共に考え、提供していくため、部署を再編し組織体制を強化することで掲示板投稿監視事業の更なる拡大に努めてまいりました。

また、FacebookやTwitterといったソーシャルメディアの利用が拡大する中、企業のソーシャルシフトや代理店を通じた広報・マーケティング活動を積極的に支援できる体制を構築すべく、平成24年4月にソーシャルメディア部門であるソーシャルシフトエージェンシーを創設いたしました。さらに株式会社サイバー・コミュニケーションズとソーシャルメディア領域に特化した共同専門チームを発足することで、企業のソーシャルメディアマーケティングを総合的に支援できる体制を整備し、事業基盤を強化しました。

平成24年6月には、株式会社ウイングルにおいて有人監視サービスやカスタマーサポートサービスを提供しているアウトソーシング（BPO）事業を承継した新設会社イーオペ株式会社の全株式を取得し、子会社化いたしました。これにより当社グループのサービスラインナップを拡充することで競争優位性を確保し、事業拡大に努めてまいります。

投稿監視業務では、ソーシャルWEBサービスへの一般利用者からの投稿に対する監視サービスだけでなく派生業務も含めて業務拡大を図ってまいりました。今日ではインターネットやモバイルの普及により、多くの企業がインターネットを通じて商品・サービスを取り扱うようになり、各企業の顧客獲得の争いが過熱した結果、訴求力が強く、消費者の目を引く広告がインターネット上に溢れ、商品・サービスを本来以上の内容と誤認してしまうトラブルが発生しております。このような環境のもと、インターネットの広告媒体や複数店舗が出店するサイト・モールなどに掲載される広告・サイト上のテキスト・画像情報などに対して、景品表示法、特定商取引法、薬事法等の各種関連法規及び顧客の掲載基準に基づいて、その基準に違反していないかを審査する広告審査業務、インターネット上で公開されているブログや掲示板等の情報から顧客の企業や製品・サービスに対する風評等を調査する風評調査業務といった既存のインフラを利用した派生業務についても積極的に取り組んでまいりました。

カスタマーサポート（以下、「CS」という）業務では、スマートフォンの台頭やSNS向けコンテンツのオープン化により普及が進んでいるソーシャルゲームにおける問い合わせ対応やソーシャルメディアにおけるアクティブサポート（※3）等の業務拡大に努めてまいりました。

また、前事業年度より提供を開始しているソーシャルWEBサービス向けの投稿監視システム「E-Trade nt」においては、新たにワードマッチングやレポート機能、ページアンフィルタを実装し、本格稼働いたしました。ソーシャルWEBサービスを安心・安全かつ活性化させる環境を構築することで、すべての顧客により大きな付加価値を提供することを目指して競合他社との差別化を図っております。

用語説明

（※1） SNSやブログ等のソーシャルメディアや、ソーシャルゲーム、ソーシャルコマースなどの、個人同士双方向のコミュニケーションが介在する全てのインターネットメディア

- (※2) オンラインゲームなどで、ゲーム内で得られたキャラクター、アイテム、ゲーム内仮想通貨等を、現実の通貨で売買する行為
- (※3) クライアント企業に代わり、エンドユーザーであるお客様からの問い合わせを待つだけでなく、困っている人をソーシャルメディア上で探し、能動的に支援を行うサービス

この結果、第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は1,630,820千円、営業利益は44,231千円、経常利益は63,294千円、四半期純利益は25,807千円となりました。

当社グループは単一セグメントであるため、セグメントごとの記載はありません。業務の種類別の業績は以下の通りであります。

- ① 投稿監視業務におきましては、ソーシャルWEBサービスに対する監視サービスの必要性がより一層高まりを見せており、大型案件の受注と継続化、既存顧客への深耕営業による取引拡大、新規顧客へのアプローチの強化に努めてまいりました。また、イーオベ株式会社の子会社化による既存業務の基盤強化に加えて、高成長が見込まれるソーシャルメディア領域のサービス体制を強化して営業活動を行った結果、新規顧客との取引が拡大し、今後の成長基盤を構築することができました。
- その結果、売上高は1,103,726千円となりました。
- ② CS業務におきましては、ソーシャルゲームプロバイダ向けサービスの獲得に注力いたしました。多数のプレイヤーが複数のソーシャルゲームタイトルをリリースする市場環境も相まって、案件獲得数は順調に推移いたしました。また、ソーシャルゲーム24時間カスタマーサポートやソーシャルメディア上でエンドユーザーの疑問・不満・悩みなどを自発的・積極的に見つけ、解決するアクティブサポートといった新サービスの提供を行い、業務拡大に努めてまいりました。
- その結果、売上高は390,963千円となりました。
- ③ 派遣業務におきましては、インターネットメディアの監視業務を自社内で運営したいと考えているクライアントに対して、投稿監視業務を運営できる人材を派遣いたしました。また、一部契約においてはサービス実績を評価頂いた結果、派遣業務から投稿監視業務へ契約形態が切り替わりました。
- その結果、売上高は27,857千円となりました。
- ④ オンラインゲームサポート業務におきましては、オンラインゲームを運営するクライアントに対し、ゲームマスター業務などオンラインゲームの運営をサポートする各種業務全般の提供に努めてまいりました。また、既存顧客の新規タイトル追加時の顧客ニーズの把握と深堀りや、既存業務からさらに他業務への展開提案といった施策を行い、業務範囲の拡大を推進いたしました。加えて、ローカライズやデバッグ等の周辺業務についても提案を行ってまいりました。
- その結果、売上高は108,272千円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産)

流動資産は943,084千円となりました。主な内訳は、現金及び預金が599,395千円、売掛金が281,793千円であります。

固定資産は、285,616千円となりました。主な内訳は、無形固定資産が177,894千円、投資その他の資産が60,401千円であります。

この結果、当第3四半期連結会計期間末における総資産は1,228,700千円となりました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は、284,861千円となりました。主な内訳は、未払金が187,393千円であります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、943,838千円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当事業年度の業績予想は、平成24年4月3日および平成24年5月8日公表時から変更なく、現時点で通期業績予想の修正はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

平成24年6月1日付でイーオペ株式会社の株式を取得し同社を子会社としたため、当第3四半期連結累計期間より連結の範囲に含めております。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

（4）追加情報

（会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用）

第1四半期会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

これにより、当第3四半期連結累計期間の賞与引当金戻入額10,854千円は、売上原価並びに販売費及び一般管理費の区分に計上しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間
 (平成24年6月30日)

資産の部	
流動資産	
現金及び預金	599,395
売掛金	281,793
仕掛品	1,499
前払費用	14,866
繰延税金資産	24,623
その他	20,906
流動資産合計	943,084
固定資産	
有形固定資産	47,320
無形固定資産	
のれん	29,913
ソフトウェア	147,106
その他	873
無形固定資産合計	177,894
投資その他の資産	60,401
固定資産合計	285,616
資産合計	1,228,700
負債の部	
流動負債	
買掛金	15,644
未払金	187,393
未払費用	27,601
未払法人税等	1,727
未払消費税等	19,085
賞与引当金	14,764
その他	18,645
流動負債合計	284,861
負債合計	284,861
純資産の部	
株主資本	
資本金	337,326
資本剰余金	294,576
利益剰余金	311,442
自己株式	△20
株主資本合計	943,324
新株予約権	514
純資産合計	943,838
負債純資産合計	1,228,700

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年10月1日 至 平成24年6月30日)
売上高	1,630,820
売上原価	1,294,925
売上総利益	335,895
販売費及び一般管理費	291,664
営業利益	44,231
営業外収益	
受取利息	57
補助金収入	18,505
その他	507
営業外収益合計	19,069
営業外費用	
為替差損	5
その他	0
営業外費用合計	6
経常利益	63,294
特別損失	
固定資産売却損	914
固定資産除却損	3,406
事業所閉鎖損失	4,454
特別損失合計	8,775
税金等調整前四半期純利益	54,519
法人税、住民税及び事業税	21,714
法人税等調整額	6,997
法人税等合計	28,712
少数株主損益調整前四半期純利益	25,807
四半期純利益	25,807

（四半期連結包括利益計算書）
（第3四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	当第3四半期連結累計期間 （自 平成23年10月1日 至 平成24年6月30日）
少数株主損益調整前四半期純利益	25,807
四半期包括利益	25,807
（内訳）	
親会社株主に係る四半期包括利益	25,807

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。